

あんげろす

少し前のことになるが、1994年9月にギリシアに旅行した時のことである。アテナイの町に「ビザンティン博物館」という博物館があると知り、そこを訪れた。

様々な興味深い展示物の中でひととき興味を惹かれたのが、紀元四世紀の教会堂の内部をそのまま復元したという一室である。内部はほとんど大理石で出来ており、床は幾何学模様のモザイクで飾られ、正面には---聖餐式のためのものであるか---何の飾りもない簡素なテーブルがあり、そして四方の壁は一面のレリーフで覆われていた。ふと見ると、若い男が笛を吹きその周りを様々な動物がとり囲んで楽しげに笛の音に聴き入っているレリーフがある。解説を見ると、それはギリシア神話のオルフェウスで、復活のモチーフを表しているとのことだった。

教会堂とオルフェウス---この奇妙な取り合わせはかなりの衝撃であった。爾来、この印象が、わたしのキリスト教研究のひとつの動機づけとなっている。

水落 健治

第28号

2002. 5

